

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1070.50	2023/5/1
High	1092.24	2023/5/1
Low	1036.26	2023/5/5
Close	1062.77	2023/5/5

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4708.50	2023/5/1
High	4804.90	2023/5/1
Low	4468.00	2023/5/5
Close	4606.00	2023/5/5

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	1504.00	2023/5/1
High	1518.00	2023/5/1
Low	1414.00	2023/5/4
Close	1490.00	2023/5/5

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	6587.00	2023/5/1
High	6673.00	2023/5/1
Low	6117.00	2023/5/4
Close	6461.00	2023/5/5



ニュースエクスプレス

プラチナは近いうちに供給不足に陥る可能性

プラチナ生産の75%を占める南アフリカで鉱山生産や精錬に必要な電力が不足していることから、プラチナの供給が不足する懸念が出始めている。ここで留意すべき点は二つあり、一つはプラチナの供給が地理的に偏っていること、そして二つ目は電力は、それなしでは当たり前にあるその他の資源が手に入らなくなるという意味で重要資源であることだ。

プラチナは貴金属であるが、有害な排気ガスを軽減する自動車触媒で使われる工業用メタルとしての需要が大きい。またプラチナは人体に悪影響を与えないことから電極として体に埋め込まれるインプラントにも使われている。そしてプラチナは宝飾品や高級時計に使われているのはいうまでもない。

我々の生活でプラチナが減ったとしてもそれほど問題ではないかもしれないが、工業分野ではそうはいかない。プラチナの代替となるメタル、例えばパラジウムなどがすぐに入手できるとは限らないからだ。

パラジウム生産の多くはニッケル採掘の副産物である。したがってニッケルの価格がそれなりに上がらなければ、鉱山会社がパラジウムを生産するためにニッケル鉱床を探すということは難しい。

ちなみにパラジウム生産は、南アフリカの他にはロシアが主要生産国である。

地政学的な状況やエネルギー戦略が複雑になるにつれて、適正価格で十分に購入できなくなる重要資源が増え、プラチナはその一つに過ぎないと思うかもしれない。しかし資源は無限だという考え方は、資源は豊富かつ簡単に手に入り、そして地政学的な基盤が友好的で平和であるという前提に基づいている。もちろん資源の枯渇が理由で軍事的衝突が起こって世界の外交や貿易協定を揺るがすこともあり、それがさらなる資源の不足を招くこともあるだろう。

実際このような状況は既に発生しているのだ。ウクライナでの紛争はもとより、中国と米国の関係悪化は既に半導体など重要な生産物の貿易制限に及んでいる。それでも近いうちに平常に戻ると考える人は多いようだが、そう思っている人々は本当に何が起きているのかをよく把握していないのではないだろうか。

<https://oilprice.com/Metals/Commodities/Platinum-May-Soon-Be-In-Short-Supply.html>

プラチナ、ゴールド、シルバーに負けるパラジウムのパフォーマンスは依然危険な状態

パラジウム価格はゴールド、シルバー、プラチナなど他のメタルの価格から乖離しつつある。プラチナ、ゴールド、シルバーが過去12ヶ月間で10%以上も上昇したにもかかわらず、パラジウムは36%以上も下落している。

その理由として考えられるのは過去数ヶ月間、プラチナとパラジウムの価格差が非常に大きくなっていったことがある。例えばパラジウムは2022年に3000ドルになった時、プラチナは約826ドルであった。このため自動車触媒メーカーの多くは安価であったプラチナを使うようになっていた。

その他の理由としては、ロシアによるウクライナ侵攻によって、ロシア以外の国でも生産が多いプラチナに需要が移ったことだ。プラチナの主な輸出国は南アフリカ、英国、米国などで、ロシアは第4位である。一方パラジウムはロシアが最大の輸出国で、その他の輸出国は南アフリカ、米国、英国、イタリアと続く。

したがって、現在のレベルではパラジウムよりもプラチナの方が安いいため、プラチナ価格は今後も上がり続ける可能性がある。両者の価格差はいまだに約300ドルと比較的大きい。3月31日の記事に書いたように、プラチナは需要の高まりを背景に今年は供給不足になるとされる。

同様のことが2021年に供給余剰になったパラジウムにも当てはまる。アナリストらは、パラジウムは今年、3年ぶりの供給不足になるとしており、WPICによると、不足は17.3トンの予測。

日足価格チャートを見るとパラジウムは過去数ヶ月間弱気相場で、最近も赤で表されているように上昇チャンネルを形成している。現在の価格はこの上昇チャンネルの下限で、25日間と50日間の移動平均指数を下回っている。

したがってパラジウム価格は、数ヶ月のうちに売り手が、主要サポートと見られる今よりも約11%低い1300ドルのブレイクを狙うことで弱気相場になるのではないかと考えられる。

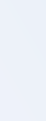
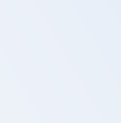
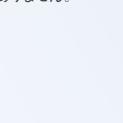
<https://invezz.com/news/2023/05/02/palladium-price-is-still-at-risk-as-it-trails-platinum-gold-silver/>

Translated by Kazuko OSAWA



WPIC直近の活動

- 英国王チャールズ3世の戴冠式が5月6日土曜日に行われるにあたり、英王立造幣局は初めてチャールズ国王の肖像をかたどる2023 プリタニアプラチナ地金コインを発表した。今回は1オンスと1/10オンスのプラチナ地金コインの二種類で、どちらも王立造幣局標準の純度99.95%のプラチナ製。その背後にはどんな物語があるのだろうか。詳しくはプラチナ豆知識「国王にふさわしいコイン」（2023年5月3日）をご覧ください。  
<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2023/05/03?page=1&term=&category=>



(@wpicjapan)